



ティーエスケイ情報システム 株式会社

事業内容

情報通信機器の販売、システム開発・運用、ハード保守等

創業 平成10(1998)年2月4日

代表者 代表取締役CEO 高尾 忍

社員数 56名(男43名 女13名)

本社 島根県松江市学園南2-10-14

電話 0852-27-6061

採用エリア(勤務地)

松江市、出雲市、江津市、浜田市、広島県

採用区分

新卒採用 キャリア採用

採用担当者からあなたへ

当社では若手社員が活躍できるフィールドが多く、理系出身者だけでなく文系出身の社員や、入社前はまったく知識のなかった社員も活躍しています。地域に貢献できるような仕事がしたい方、県内産業のIT化を推進していきたい方とお会いできるのを楽しみにしています!



経営企画室 春日 尚子さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-27-6061

採用直通 E-mail

tskis_recruit@tskis.co.jp

公式サイトはこちら



顧客と継続的に関係を築き、必要なニーズを形として提案

学生時代にアパレル業界で接客のアルバイトを経験し、営業職に興味を持った。「一度限りのお客様が多い業界より、継続的にお客様との関係性を築ける『BtoB』の業界の方が自分に合っている気がして。IT業界ではお客様によって提案する商材が変わるので、日々新たな発見があります」

約20社の民間企業を担当。こまめに顔を出してニーズを聞いたり、商品提案したりするのが仕事だ。昨年は、展示会で好感触を得た安全運転管理者支援システムを顧客に紹介し、多くの会社と契約を実現。「記録簿を自動で作成できる点や、スピーディなアルコールチェックが評価してもらえたようです」。検査の義務化を前に、企業側の関心も高かったという。「売りたいものを販売するのではなく、お客様のニーズを見極めてタイムリーに提案するのが大切だと実感しました」。苦手なシステムやネットワーク関係の知識を深め、エンジニアとの橋渡しをスムーズに行える営業を目指している。

インターハイ出場経験もある元陸上選手。土日は地元クラブのコーチを務め、後進育成にも励む。



営業部 石川 結貴さん 2022年入社



1 2 社員の平均年齢は36歳と若く、社内の雰囲気も明るい 3 2024年6月に就任した高尾忍社長。安来市を拠点に活動するビッグバンドではベーシストの顔も持つ 4 営業部とシステム部との連携は不可欠。互いにコミュニケーションを取り、顧客需要に対応している

ティーエスケイ情報システム 株式会社

変化に対応し、挑戦し続ける地域DXを支えるプロ集団

04 LEADING COMPANY

部活動の地域移行をサポート 地元密着でニーズに応える

クラウドやスマートフォンの普及に加え、人工知能が新たな可能性を次々と生み出し、加速度的に変化する現代社会。システム開発・運用などのソフト事業から情報通信機器の販売保守管理などのハード事業まで、トータルサポートする《ティーエスケイ情報システム株式会社》は、顧客への細やかでスピーディな対応で存在感を見せてきた。今年6月末に就任した高尾忍社長(64)は、「DX化が依然進まないなど、課題を抱えている企業は数多くある。改めて丁寧なマーケティング調査を行い、各企業のニーズに合致したサービスを提案していきたい」と抱負を語る。

《山陰中央テレビジョン放送株式会社》内で1984年、情報機器事業部として発足。14年後にITに特化した新会社として独立した。売り上げの約8割を自治体向けが占め、中でも文教分野に強い。教育現場の声を丁寧に拾い上げて開発した統合型校務支援システム(スマート校務)は、豊富なラインナップとクラウドアプリ連携で教職員の業務負担を大幅に軽減。その機能が高く評価され、県内約120校に導入されているが、今年度以降には初めて県外

自治体からの受注も見込んでいる。新規事業として力を入れているのが、既存アプリを活用した部活動の地域移行サポートだ。部活のスケジューリング管理や共有、指導員や保護者との連絡などさまざまな業務を一元管理できるサービスを提案し、既に松江市内のスポーツクラブでの導入が決定した。「中山間地域の吹奏楽部では、学校単位でメンバーが集まらないとも聞いています。地域で数人規模にまとめていくお手伝いなどもできれば」。学生時代、吹奏楽部や軽音楽部に所属し、現在もビッグバンドでベースを操る高尾社長。好きなことに打ち込める喜びと、地域の実情の面方を知っているからこそ、言葉にも熱い思いがにじみ出る。会社が掲げるのは、「社員やその家族が幸せであって初めて、顧客の幸せや地域の幸せを考えるとができる」という理念。今夏は全社員と30分以上の面談を実施し、率直な思いに耳を傾けた。「社員の性格などを知るだけでなく、職場環境改善に関する意見も多く聞くことができました。できる限り実現を目指したい」。10月からは早速オフィスカジュアルを導入した。

今後は民需部門の拡大にも注力。地域のDX化に欠かせないプロ集団として挑戦し続ける。

エンジニアの技術磨き、ITの力で地域課題解決を

高校時代からプログラミングに興味を持ち、大学でも情報技術を学んでいた國光さん。「地域DXを支えるプロ集団」という会社のビジョンに共感し、門をたたいた。「少子高齢化や若手人材の県外流出など、気になっていた地域の課題をITの力で解決できれば、という思いを抱いていました」

システムエンジニアとして、現在は福祉関連施設をメインに各種システムや通信機器を導入。ソフトのインストールやOS設定などを社内で行った後、現地で既存端末を新しい機械と交換し、ネットワーク接続や動作確認などを行っている。「仮想的にネットワークを構築する『VLAN』など難しい設定も多く、先輩に指導してもらいながら技術を磨いています。扱うのはお客様の資産なので取り扱いにも気を遣っています」と頭をかく。

入社前、懸念していたのが社内の人間関係だったが、すぐに払拭。「わからないこともすぐに聞ける環境で、仕事もしやすいです」。元々はシステム開発を希望していたが、ネットワーク関係を担当する中、エンジニアとしての関心の幅が大きく広がった。現在は基本情報技術者を目指し、勉強中だ。



システム部 國光 晴人さん 2024年入社

